

名事研=ユース

名古屋市立小中養護学校事務研究協議会
<http://www.tcp-ip.or.jp/~meijiken>

No. 128

平成16年6月30日

発行 名古屋市立小中養護学校
事務研究協議会 情報部
発行責任者 佐藤 恵子

5月19日、市教育センターにおいて平成16年度 定期総会が開かれ、平成15年度の事業報告等の審議のあと、昨年度に引き続き大橋会長が承認されました。平成16年度事業計画、予算案等についても承認され、本年度の名事研活動がスタートしました。

「効率化」と「高度化」

会長 大橋 新太郎
(桜丘中学校)



6月4日、経済財政諮問会議が答申した、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2004」(いわゆる「骨太の方針2004」)が、閣議決定されました。

その中では、直接教育については、「『人間力』の抜本的強化」として、「教育現場の活性化」が述べられ、また、「平成17年度の予算における基本的考え方」として、「義務教育に関する地方の自由度の拡大」や「義務教育国庫負担制度の改革を推進する」とされています。

県費負担教職員の給与負担を、都道府県から政令指定都市への移管する問題については、多くの政令指定都市で調査担当者や部署を設けています。この問題については、税源移譲の問題はあるものの、移管そのものに反対するという声はほとんどなく、いわば、「条件闘争」になっています。国や文科省の方針が明確になると、速いテンポで進む可能性もあります。

こうした変化の中で、私たちがまずもって考えるべきことは、<学校や学校教育をよりよくしていくには何が大切なのか> ということです。そのとき、学校や学校教育も、また変化していることを忘れてはなりません。学校制度(説明責任・評議員制等)や教育内容(マイスクールプラン等)も具体的に変ってきているからです。当然、日常の業務の中でも変化に対応し、それをサポートする<姿勢>が重要になってきます。

制度や業務を改革しようとするとき、「定型的事務処理の効率化」と「企画判断業務の高度化」が、要諦です。「効率化」は、日常現場レベルだけでなく、組織的・条例規則レベルでも行わなければなりません。また、「高度化」の努力が、学校や教育の質を規定していきます。きめ細かい努力と創意工夫された学校は、門を入れば一目でわかります。

また、改革を考える上で、最も忌むべきものがあります。それは、行政の「縦割り主義」です。ネットワーク社会になった現在、そうした思考は、致命的な結果を生み出します。

「縦割り主義」を排し総合的に思考するとともに、作業の「効率化」なき改革は<退化>であり、質の「高度化」なき改革は<背信>である、と知るべきです。

平成16年度の名事研活動について

副会長 中村紀子
(相生小学校)

さまざまな改革の流れの中で、学校事務や学校事務職員を取り巻く状況は非常に厳しさを増しているように感じます。特に義務教育費国庫負担制度見直しや政令市移管の問題等、ここ2-3年(1-2年?)のうちにも大きな山場を迎えることなり、学校事務職員制度についても今後大きな変革が予想されています。今、学校事務のあり方や学校事務職員の存在意義がこれまで以上に問われているということをしっかりと認識する必要があると思います。

本年度名古屋市教育委員会においては、「教育改革プログラム」により子どもや地域の特性を生かした特色ある教育・学校づくりの推進をはかっています。厳しい財政状況の中でもこの趣旨に沿って今まで以上に予算の弾力化が図られており、特色ある学校づくりのために、どのような予算措置ができるかがますます重要になってきています。

このような状況の中、名事研では現在及び将来を見据え、事業の精選・スリム化を検討し、事務改善や研究・研修を行う事ができる組織づくりと機能強化をめざして活動を進めます。また、市教委はじめ関係機関、他都市の研究会との連携を深めるとともに、政令市移管に伴う研究協議会のあり方等についても検討します。

大きな事業として、平成17年1月下旬に第10回名古屋市立小中養護学校事務職員研究大会を開催します。昨年度までの研究大会の成果と課題をふまえ、実行委員会を立ち上げて、節目となる第10回の研究大会にふさわしい内容になるよう準備を進めます。

事務局では、従来分担していた学校事務の効率化に係る事業の内容(重要通知文集の更新、旅費事務の効率化や文書管理事務の充実など)を他の専門部へ移行し、名事研組織運営方針についての企画・立案の強化を重点に活動を行います。

研究・研修・総務・情報の4部においては、今年度も「学校事務に関する実務、理論の研究」、「研修会の企画、運営」、「市大会、総会等の準備、運営」、「学校事務の情報化推進」を中心に活動をしていきます。各部間での連携をさらに強め、事務局から移行した事業活動も含め、効果的な事業の執行に努めます。

研究部では、10月に西尾市で行われる県大会第一分科会において、「発信していこう!!学校財務情報」をテーマに研究発表を行います。

その他の事業として 事務ハンドブック編集(瑞穂区担当)、政令指定都市間の情報交換、区の情報ネットワークの活用、関係団体・組織との連絡調整などを行います。

会員相互の連携の下、少しでも学校事務の未来を開拓できるよう名事研活動を進めていきたいと考えています。

皆様のご協力をお願いいたします。

講演 「これからの名古屋の学校事務」

講師 教職員課長 坂野重法氏

総会に先立ち、教職員課長 坂野氏より講演をいただきました。

現在、名古屋市が実施している「教育改革プログラム」や「さわやか市民サービス運動」の概要説明に続き、名古屋の学校事務の歴史を紐解きながら、学校事務職員を取り巻く状況と課題、さらに、学校事務職員に期待することをご自身の体験を交えながら熱く語っていただきました。

期待する事務職員像として

行政職員としての専門性を持った職員

情報管理担当者としての役割を果たす職員

子どもの成長を見守る事務職員

の三点をあげられ、最後に「<明るく存在感のある事務職員>になっていただきたい。」と締めくくられました。



平成16年度の名事研活動が始まりました。

事務局はじめ1局4部の部長より本年度の活動について抱負を述べてもらいました。

事務局

「されど空の高さを知る」

事務局長 榊原 功剛

大河ドラマで使われた「井の中の蛙」に続く台詞が、変革の中で大きく扱われるように学校教育とりわけ学校事務を象徴的に表しているように感じます。

事務局の重要な役割は名事研事業の「空の高さ」のための企画・立案機能の強化ですが、「井の外」への対応も重要となっています。様々な事柄がどれも重要であると気負いこんでしまわず、一つずつ着実に進めていければと思います。

結果として「井蛙不可以語於海者、拘於虚也」にならないように……

総務部

名事研と会員との架け橋に！！

総務部長 日置 雄二

10年ぶりに総務部に戻りました。なんだか懐かしいような、それでいて新鮮な気分でのスタートさせました。

今年の総務部の活動としては、例年のように、市研究大会・定期総会の準備・運営、各種研究大会の案内及び集約を行っていきます。

また、今年度、事務局より移管された「重要通知文集」や「旅行命令書作成ソフト」の更新も手がけて行きます。『よりよく、使いやすい物を！』を目標に編集していきたいと考えています。

総務部は、名事研と会員相互の連携をより深め、よりよいものにしていくための架け橋になれるように努力してまいります。名事研をより身近に感じてもらえるような活動を考えていきたいと思っております。いろいろなご意見を、どんどんお寄せいただきますようお願いいたします。

研究部

「学校事務の未来を前向きに
考えていきたい」

研究部長 毛利 和正

ここ数年、教育改革を始めとした様々な改革が進められています。仕事に大きな変化が訪れたと感じたのは、財務会計システムが本格稼働した時です。それまでの手書きによる書類作成からコンピュータによる入力、さらにネットワークでの報告と、この間に私たちの事務処理の形態は大きく変わってきました。

一方、学校も完全週5日制の実施とそれに伴う学習指導要領の改訂、総合的な学習の時間など特色ある教育活動が実施されています。学校配分予算も年々減額されているものの、より弾力的な執行が可能となり、主体的な学校づくりができる体制を財政面から支援できるようになっています。

こうして、私たちの仕事に変化や教育の内容に変化があっても、学校そのものはまだまだ変わっていないように思います。変革の時代にあって、本来なら、学校が変わらなければいけないのではないかと思います。そのためには、学校事務が学校運営の一翼を担っていくことが大切だと思います。変化を持つのではなく、これから押し寄せてくる変化に対して、改革の時代にふさわしい学校事務を模索していきたいと考えています。

最後になりますが、10月に開催される愛知県大会分科会で、「発信していこう！！学校財務情報」をテーマに研究発表を行います。

会員のみなさんの参加をお待ちしています。



研修部

日々これ「研修」なり？

研修部長 服部 紋子

「研修」というと、何か特別なことをやるという印象を受けます。何もそんなに堅苦しく考える必要はないと思います。例えば、手引きなどをゆっくり読み直してみると、改めて認識直すことがあります。そんなことも「研修」のひとつになるのでは？そんなふうに考えます。大上段に構えるのではなく、毎日の仕事の中で確実に知識を増やしていくことで、仕事に対する自信や余裕が生まれる。その自信と余裕がさらなるキャリアアップにつながり、今まで見えなかったことへのチャレンジ精神を生み出していく。研修部を始め最近の若い方を見ていて、そんなことを感じています。

今年度も研修部では、若くてフレッシュなメンバーが「自分自身も研修・自分が受けるのであれば…」といった感覚で、研修の企画運営に頑張っていて取り組んでくれていますので、みなさんのあたたかいご理解とご支援をお願いします。

情報部

みんなが知ってる「情報」を目指して

情報部長 佐藤 恵子

「情報の共有」・・・それは誰でも同じ情報を知っているということ。

私たちが仕事を進めていく上で必要な情報をタイムリーに伝える、それが情報部の今の活動の基本だと思っています。一人が知り得た有益な情報を会員みんなが知ることができれば、それが学校事務の効率化・高度化につながるのではないのでしょうか？情報部は、事務局や他の専門部と協力しながら、ほんのちょっとした事でもみなさんと「共有」できる情報を求めてアンテナを回しています。「こんな事を知ってるよ。」という声をお待ちしています。

平成 16 年度役員等名簿

会 長	大橋新太郎	(桜丘中)	全事研副会長	仙田作吉	(滝ノ水小)
副 会 長	林 敦子	(鶴舞小)	全事研理事	日置雄二	(富士中)
副 会 長	山本和彦	(伊勢山中)	県事研会長	西脇忠彦	(守山西中)
副 会 長	中村紀子	(相生小)	県事研副会長	桑山賢治	(萩山中)
会 計	岩田さゆみ	(前津中)	県事研情報企画部長	二村忠浩	(千石小)
会 計 監 査	小出雅子	(川中小)	県事研会計	加島道代	(宮中)
会 計 監 査	奥村雅子	(東桜小)	世話係長	坪井博子	(若水中)
顧 問	松井 修	(千早小)	副世話係長	友松保之	(瑞穂小)
表簿用紙規格研究委員会委員	山本和彦	(伊勢山中)			
表簿用紙規格研究委員会委員	佐藤恵子	(幅下小)			

事務局 事務局長 榊原功剛 (日比野中) 林 昭宏 (矢田中) 永井智子 (大磯小)
 事務局次長 高木英之 (今池中) 海野信一 (稲葉地小)

研究部 毛利和正 (徳重小) 安達孝一郎 (田光中) 小川雅裕 (黒石小)
 宮地里美 (本郷小) 加藤豊子 (白鳥小) 金森順子 (前山小)
 長松軒由美 (黄金中) 安形知江子 (廿軒家小)

研修部 服部紋子 (豊臣小) 内川まり子 (長良中) 大野真由子 (上社小)
 石原かおり (井戸田小) 山田雅代 (福田小^別) 田中明美 (植田北小)
 山内健嗣 (千種中) 山崎文恵 (森孝中) 藤原崇光 (植田小)
 坪井宏之 (楠西小) 小池ひとみ (平子小) 伊藤真也 (天白養護)
 中村沙智 (豊治小) 遠藤 剛 (滝ノ水中)

総務部 日置雄二 (富士中) 小出美保 (名城小) 宮田恵子 (供米田中)
 平岩宗明 (大高小) 森上恵子 (駒方中) 内藤洋子 (助光中)
 浅見仁美 (東志賀小) 佐藤治男 (荒子小) 関水紀子 (成章小)
 井口貴夫 (西味鏡小) 都竹千夏 (八熊小)

情報部 佐藤恵子 (幅下小) 森川千栄子 (那古野小) 上島 薫 (守山養護)
 福本定治 (志段味西小) 山田陽一 (船方小) 渋谷高司 (長根台小)
 白根 勲 (高田小) 新村有加里 (篠原小) 松田理恵 (鳴子小)
 中林誠永 (金城小) 廣瀬由佳 (南養護)

(は部長 は副部長)